

■ 冬休みの話題から ■

最近の話題から。

学校は冬休みに入っている。長期休業中は校舎の更衣室やトイレなどの清掃は、部活動ごとに割り当てられている。「部員がトイレ掃除に行ったまま、なかなか帰ってこない。どうしたのかと思って見に行ったら、トイレをピカピカに磨き上げていて、うれしくなった」。昨日、女子バスケット部の顧問から聞いた。手を抜こうと思えば、いくらでもできただろう。でも部員たちは、自分たちのできることを精一杯やることを選んだ。人の見ていところでどんな行動がとれるのか、見えるところに人間の表面的な価値は表れる。しかし、むしろ人の見ていないところでどんな行動がとれるのか、見えないところに表れる本質的な人間性こそが大切なのではないか。

2年生は希望者による勉強合宿を行っている。お世話になる宿舎の所長さんに挨拶に行った。「人手の少ない時期は、落ち葉の片付けや食堂の仕事もこなします」と所長さん。すると、施設を利用するたくさんの学校の雰囲気がよく分かるという。「今年の明倫生はいつもに増して元気がある」。うれしい言葉をいただいたので、すぐに2年学年主任に伝えたら、「挨拶がうまくできている」とのこと。ほんの小さなことだが大切にしたい。自信というものは小さな成功体験の積み重ねでしか得られないのだから。

3年生は間近に迫るセンター試験の対策に熱がこもる。職員室前の廊下に並ぶ机で受験勉強に励む常連の3年女子生徒がいる。例年より暖かいとはいえ、暖房のない廊下の空気は冷たい。膝掛けを腰に巻き、黙々と鉛筆を走らせている。静かに通り過ぎようとしたら、気づいたのか、ふと顔を上げて、にっこり笑った。「風邪を引かないように」と声をかけたら、明るい声で「大丈夫です」と返ってきた。覚悟を決めた受験生らしい顔つきに安心した。きっと最後までこの場所でやり通すのだろう。心から応援せずにはいられない。

今秋、日没後に日課のランニングをしていたら、自転車と衝突してしまった。医師か警官か、どちらかに言われた。「打ちどころによっては、どうなっていたかわかりませんよ」。しばらく眼帯を強いられたが、普通の生活ができている。ありがたいことだと思う。年末になると、懐かしい曲が流れる。名曲『ロード』が聞こえてきた。身重の恋人を交通事故で亡くした男の実話から作られたという。♪何でもないようなことが 幸せだったと思う ♪ 今年も地上の様々なところで、多くの命が散らされる事件や事故、自然災害が起きた1年だった。幸いにも本校では、今年度これまでの9カ月、大きな事件や命にかかわるような事故はない。何事もない平凡な日々は、尊いことなのだとしみじみと感じた。

平成30年がもうじき暮れる。残された数日もやり残しのないように全うし、新しい年を新しい気持ちで迎えよう。